

〈サロン9条〉 第354回例会（2021.11.23）

テーマ 「総選挙の結果をどう読み取るのか？」 参加者 23名

話題提供：吉田千秋さん（元岐阜大学教授・哲学）

新型コロナ禍のため4カ月ぶりの「サロン9条」で、多数の方が参加されました。

11月3日の「平和のつどい」での報道特集キャスター金平茂紀さんの講演が、総選挙の直後ということもあり、「選挙結果」について話が始まりました。今回のサロンはその部分をDVDで観ることからはじまりました。

DVDの後、吉田さんは、金平さんの話を踏まえて、メディアの劣化、若者の投票率の低さ、野党共闘の効力、「自公政権よりましな」政党として伸びた「維新の会」など、今回の選挙で現れた特徴をあげられました。その上で、自公維で三分の二を獲得した岸田内閣、は「憲法改悪を進める」と強弁し、軍事費もGDP1%から2%にしようとしている。このお先棒をかついでいるのが「維新」で、来年夏の参議院選で、憲法改悪国民投票実施まで提案している危険な状況にあると指摘し、民意を反映しない小選挙区制の問題点にも触れました。そして、自己社会から他己社会へ、「絶望から希望への道筋をみつけないければならない」と話された金平講演は、「つどい」参加者に一定の希望を与えたと結ばれました。

参加者から以下のように、たくさんの意見が出されました。

○公文書を隠すのは許し難い。我々が政治家に政治を行わせているという感覚をもつべきである。小選挙制は世界的にも多いが、ドイツなど比例代表制に近いやり方もある。

○公の場で政治の話をオープンに話せるようにするべき。50%が選挙に行かないのは異常。共産党アレルギーが強く、「こわい」という作られた政治認識を変えるべき。

○岐阜では野党統一をしっかりとできなかった。市民のパワーが足りなかった。自民党にとって野党共闘は脅威。小選挙制度は諸刃の剣。3割とれば政権はひっくり返る。今回は、政策協定合意から選挙まであまりに短く、候補者の名前すら浸透させられなかった。政権合意20項目も時間不足で住民に浸透させられなかった。参議院選までにどれだけ浸透できるかが今後の課題。また、気候、ジェンダー、夫婦別姓を中心テーマにできなかった。マスコミに願っても埒はあかない。気候の問題をどれだけ若者に浸透させることができるかが大切だ。

○市民と野党の共闘ということについて考えた。市民である私たちは観客になってしまっていた。「失敗だった」は観客の視点。岐阜県民は市民と野党の共闘のためにどれだけ主体的に動いたか？ 観客になって見ていただけである。今から主体的に動かなければならないと思っている。

○大阪高槻の街頭演説を見たら、辻本清美さんのところは少なく、安倍さんのところは大勢だった。高齢者は昔ながらの感覚。私は若者との対話の経験がある。話しても通じない経験も含めてそういう場をたくさん作る必要がある。

○フィリッピンでボランティアの活動をした。20代で関心もつ若者多い。岐大生と一緒に

活動をしたこともある。若者が社会的な問題に関心がないとは限らない。大学祭に参加してみたらどうか。一緒にやれるベースを広げることが大切。SDGsなどの活動も。市民運動のレベルで拡がっていかないとダメだ。どう構想するかだ。

○若者はネット署名などで拡がっている。「これっておかしいね」が自然に表明できる社会でなければいけない。こういう社会をどうやって作っていくか。立憲民主党が今揺らいでいる。そうじゃないんだと後押ししたいと思う。

○自分は穏健な政党がいいと思っている。生煮えでは無理。選挙事務所に全部回ったが、きちんとやっているところは勝っている。連合に責任を押し付けるのは間違い。

○世話人会を選挙 2 日後に行った。立憲の基盤は連合。最低賃金 1500 円の問題が一番切実。こういう課題を含めないと連合と共闘はできない。

○台湾に関心がある。戦後 80 年で、国会議員 5 割が女性の台湾と日本の差はどうやって生まれたのか？

○共闘は、経験値、共闘の歴史の上に結果が出ている。米価大暴落。日本の食糧危機がせまっている。エネルギー、食糧の問題を軸にしているところで成果を上げている。

最後に吉田さんは「今日のような話ができる場がポストの数だけ必要です。リアルな生活問題から考え発言していくしかないと思います。」と締めくくりました。